

## 関東同窓会交流イベントで日展に

上原 昇 (2組)

関東同窓会では同窓会員の交流を図るため、毎年各種のイベントを企画・開催しています。過去には葛飾柴又を訪ねるツアーや、昔の名作映画「ひまわり」を鑑賞する会など実施しています。

今回は現在、国立新美術館で開催中の第11回日展を鑑賞する会が計画され、筆者も参加しました。

11月7日(木)の午後、六本木の会場に同窓生とその仲間10数名が集まりました。

幹事は同窓会副会長の掛川治男さん(73期)です。

今年の日展には同窓生で彫刻家の堀内秀雄さん(73期、東京成徳短大教授)の作品も出品されていることから、当日は堀内さん自らの解説付きのツアーとなりました。

<https://nitten.or.jp/summary>

日展は明治40年、文部省美術展覧会(文展)として発足、その後、「帝展」、「新文展」、「日展」と名称を変えつつ歴史を重ねてきました。平成26年(2014年)には組織改革に伴って改組して、今回、新日展として11回を迎えました。創立から116年経過しています。

美術館2階の彫刻会場に集まった参加者は、大学の先生ならではの堀内さんの丁寧かつ適切な解説をしっかりと聞くことが出来ました。

堀内さんの説く彫刻作品を鑑賞する際のポイントは三つあります。

一つは造形性(量と空間)、二つは訴求性(コンセプト)、三つは制作方法(プロセス)です。よく考えると、この3原則は彫刻に限らず全ての芸術作品に共通するのではと思いました。

堀内さんの出品作『理の選択』は赤い色調のテラコッタ(素焼き)を特徴としていて、現代風埴輪を想起させる印象深い作品でした。

堀内さんの解説を聞いた後、新たな視点で彫刻会場を一巡しましたが、筆者はすっかり疲れてしまい、残念ながら他の会場(日本画、洋画など)での鑑賞は出来ませんでした。

18時の閉館を待って、一行は次の場所へ移動します。

懇親会会場は、六本木駅近くに予約した中華料理店の個室に10名が参集しました。

参加者の中で筆者が一番の年配ということで、乾杯の発声を仰せつかり宴会がスタートし

ました。

美味しい料理を愉しみながら、今日の芸術鑑賞を肴に懇親が盛り上がりました。

こうした催しも平日だと現役の人が参加できない、休日だと混んでいて場所がとれないなど難しい問題がありそうです。

大変とは思いますが、今後も同窓生の関心を呼ぶ新企画を期待しています。

掛川幹事と堀内さんに感謝しながら帰路につきました。



自作『理の選択』前で説明する堀内さん



日展、彫刻展示会場

(2024年11月8日記)

以上